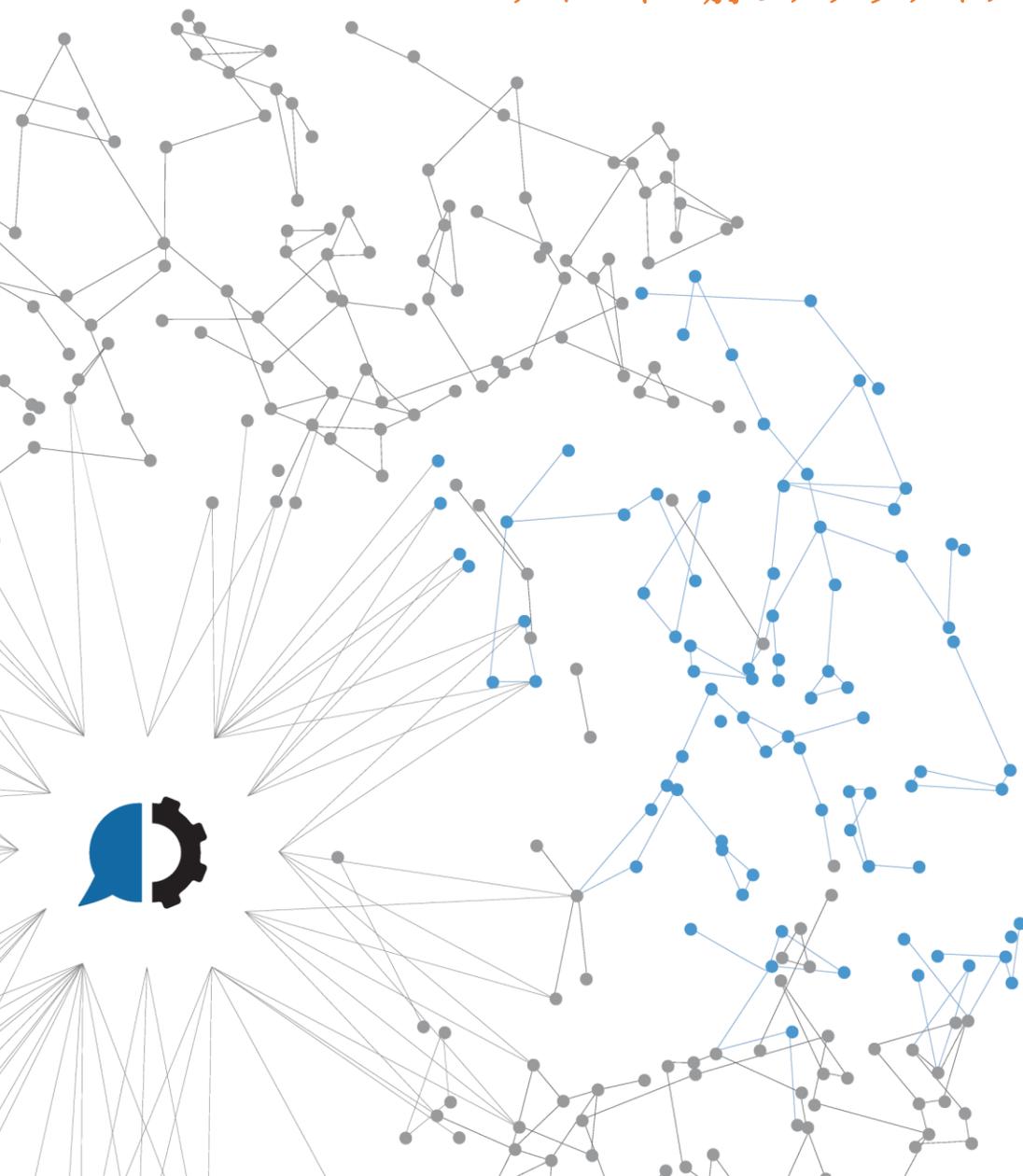




GOOGLE ANALYTICS BOT

チャンネル別のアナリティクスユーザーを取得





内容

概要	3
前提条件	4
AUTOMATE タスクをインポートする方法.....	6
GOOGLE ANALYTICS - GOOGLE ANALYTICS ページビューを実行する方法.....	7
付録 A -GOOGLE ANALYTICS ユーザービュー実行結果の例	10
付録 B -トラブルシューティング	11



概要

この How to ガイドでは、「Google Analytics - チャンネル別のアナリティクスユーザーを取得」をご紹介します。繰り返し行われる手作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに、AutoMate に任せて、ロボティックプロセスオートメーションで IT とビジネスプロセスを合理化しましょう。AutoMate は、手動で行っていた作業を代行し、繰り返し作業を大幅に減らし、作業の質と一貫性を向上させることができます。自動化されている主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポートとエクスポート、バッチ処理のスケジューリングです。

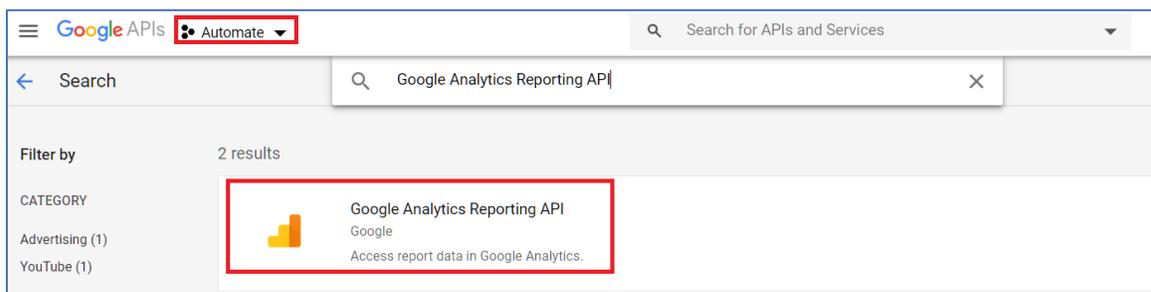
「**Google Analytics - チャンネル別のアナリティクスユーザーを取得**」は、**Google Analytics Reporting API** をベースにしています。“**reports:batchGet**” HTTP POST メソッドを実行することで、Google Analytics アカウントの特定の **View ID** に関連するユーザー関連の指標のいくつかを取得することができます。これは、タスクフォルダに日付と **channelGrouping** (ディメンション) によって**グループ化**された結果のページビューデータを持つ Excel ファイルを作成します。データ取得の時間範囲を設定することができるようになります。このボットは、ユーザー名とパスワードを使用しないように、API トークンの認証方式を使用しています。トークンは、認証の範囲に使用されるアカウントに関連付けられます。**PREREQUISITES** と **HOW TO EXECUTE THE GOOGLE ANALYTICS BOT - GET ANALYTICS USERS BY CHANNEL** のセクションをよく確認し、詳細情報を入手してください。

また、**GOOGLE - トークンの生成と更新** bot も用意されており、この bot が日常的に機能するように、最初のトークン作成と更新を簡単に行えるようになっています。デフォルトでは、トークンは1時間後に失効します。このボットは OAuth Authorization Code Workflow をベースにしています。

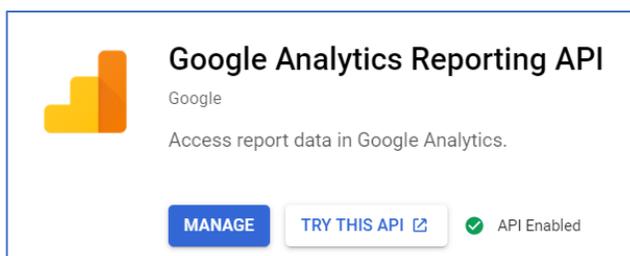


前提条件

- **AutoMate:** Google Analytics Bot が動作するためには、AutoMate ソフトウェアが必要です。最低限サポートされているバージョンは以下の通りです。
 - AutoMate Ultimate 11.2
 - AutoMate Plus 11.2
 - AutoMate Desktop 11.2
- **Automate Markup Language ファイル (.AML):** Google Analytics Bot タスクのステップを含む、AutoMate で使用される主要なファイルタイプです。
- **Google Analytics Reporting API:** 必要となる最小要件は、以下の通りです。
 - **Google アカウントで Google Analytics Reporting API を有効化する:** Google Analytics に API 経由で接続できるようにするには、開発者コンソールアカウントで有効にする必要があります。これを行うには、[リンク](#)を使用してコンソールに入ります。初回ログインだった場合、プロジェクトを作成するように求められます。Google との統合は、プロジェクトに関連付けされます。次の画像では、プロジェクトに "Automate" と名付けたことを確認できます。左側の API [ライブラリ](#) メニューに移動し、Google Analytics Reporting API を探します。



有効にすると、次のように表示されます。



- **Google Analytics Reporting API に接続するための Token を作成します:** API を有効にしたら、Google が提供するこの [リンク](#) 内の手順に従って、Google Analytics データを読み取ることができるようにスコープ “<https://www.googleapis.com/auth/analytics.readonly>” で **OAuth 2.0 Token** を取得します。

また、OAuth2.0 Authorization Code Workflow に基づいた「**GOOGLE - トークンの生成と更新**」も [BotStore](#) で提供していますので、合わせてご利用ください。このボットは、トークンとトークン-リフレッシュを維持し、日常的にこのボットを実行することができる簡単な方法を提供します。

- **Google Analytics Reporting API バージョン:** このボットは、Google Analytics Reporting API v4 を使用して作成されています。

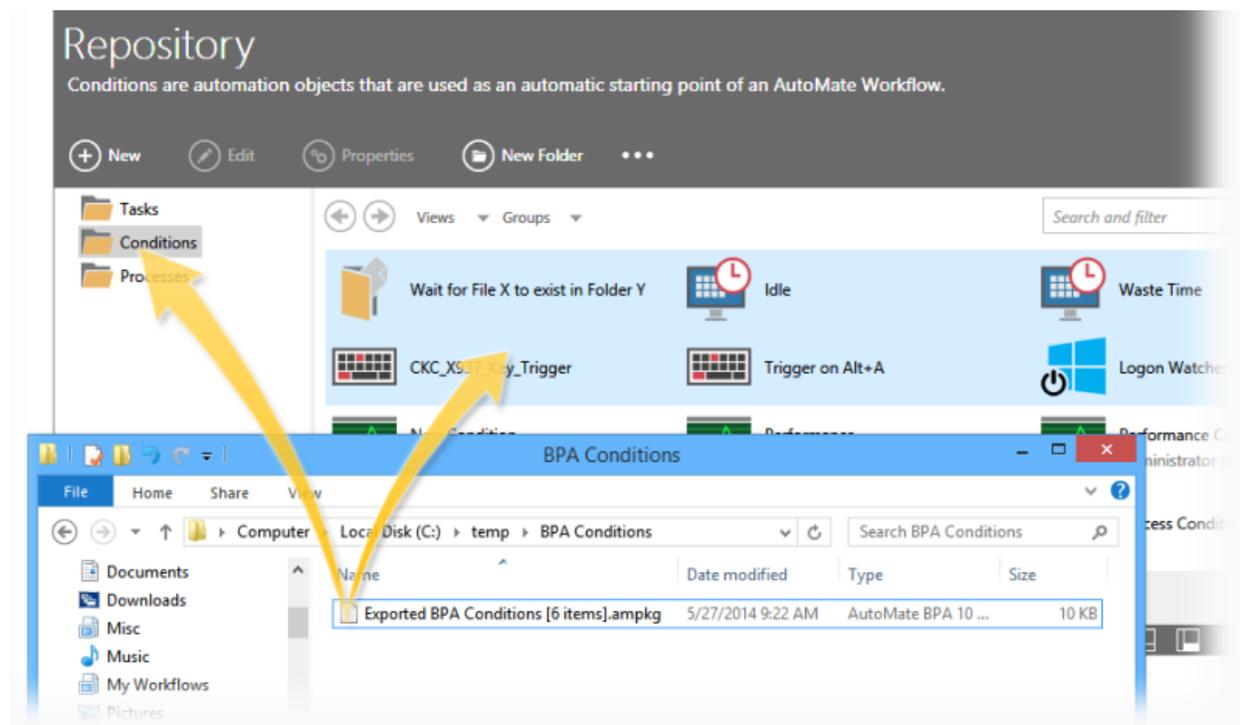


AUTOMATE タスクをインポートする方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでリポジトリに取り込むことができます。

サーバー管理コンソール(SMC)から、[リポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、SMC 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。



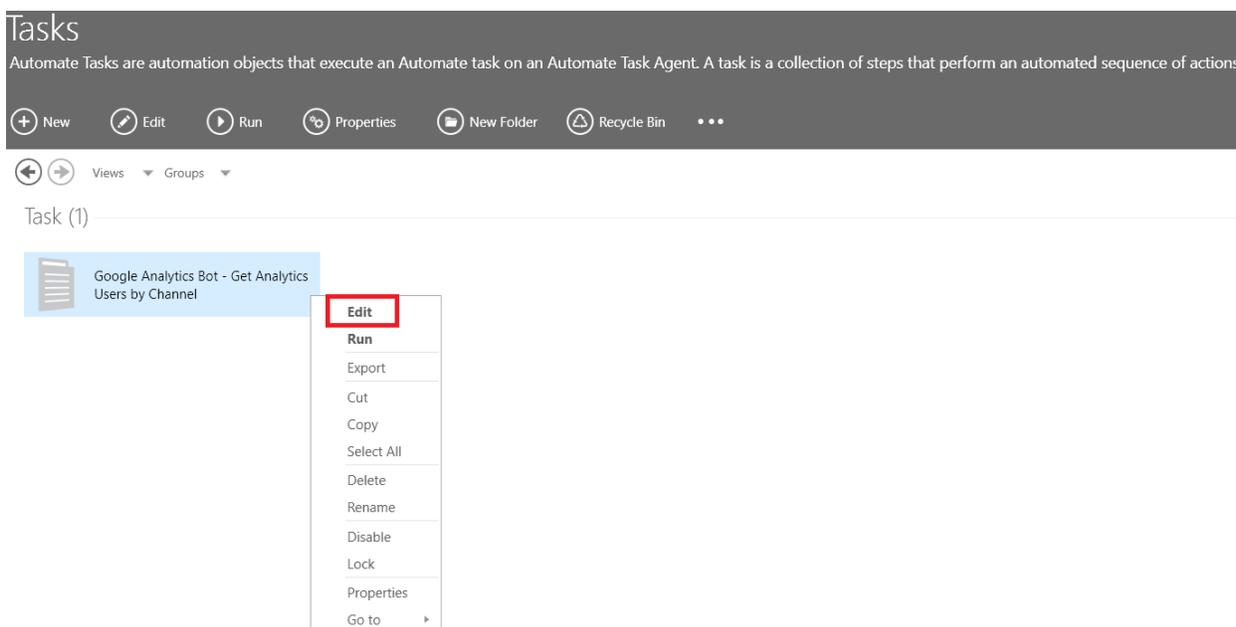


GOOGLE ANALYTICS - GOOGLE ANALYTICS ページビューを実行する方法

このタスクを初めて実行する場合、いくつかのパラメータを設定する必要があります。

サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを探します。

インポートしたタスクを右クリックし、編集を選択して編集します。



ステップ 2 からは、希望する出力に応じて次の変数を編集してください。

- **var_ViewID:** Google アナリティクスのビューID を設定します。Google アナリティクスにサインインし、管理セクションからビューに移動すると取得することができます。基本設定に ID が表示されます。
- **var_StartDate:** データ取得の開始日を設定します。【重要】日時形式を yyyy-MM-dd に設定すること。例：2020-07-01
- **var_EndDate:** データ取得の終了日を設定します。【重要】日時形式を yyyy-MM-dd に設定すること。例：2020-07-31
- **var_GoogleAnalyticsToken:** 接続用トークン（String）またはトークン情報のあるファイルのパスを設定します。トークンは、接続するアカウントに関連付けられることを忘れないでください。接続/リクエストを実行するための Google Analytics Token。トークンの値そのものか、トークンが格納された.txt ファイルがあるパスを指定します。

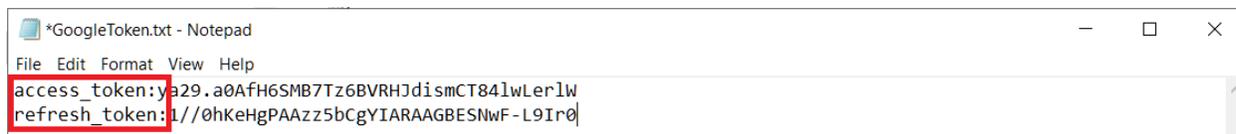


例: `C:\Automate\GoogleToken.txt`

.txt ファイルを使用する場合、トークンは次のような形式/構造でなければなりません。

`access_token:TokenString`

ファイルの例:



```
*GoogleToken.txt - Notepad
File Edit Format View Help
access_token:ya29.a0AfH6SMB7Tz6BVRHJdismCT84lwLer1w
refresh_token:1//0hKeHgPAAzz5bCgYIARAAGBESNwF-L9Ir0
```

`refresh_token` の値がありますが、これは「Google Bot - トークンの生成と更新」で管理されていることに注意してください。

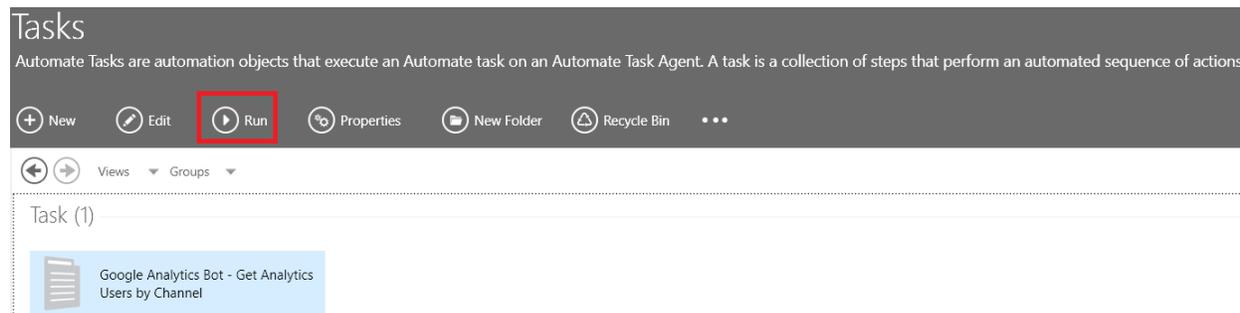
出力ファイルは、次のフィールドを持つタスクフォルダーに自動的に生成されます。:

Date(日付)、**Channel Grouping**(デフォルトチャンネルグループ)、**Users**(ユーザー)、**New Users**(新規ユーザー)、**Percent New Sessions**(新規セッション率)、**Sessions Per User**(ユーザーあたりのセッション数)、**Sessions**(セッション)、**Bounce Rate**(直帰率)、**Average Session Duration**(平均セッション時間)、**Page Views Per Session**(ページ/セッション)を表示します。また、各メトリクスの合計値、最大値、最小値も表示されます。

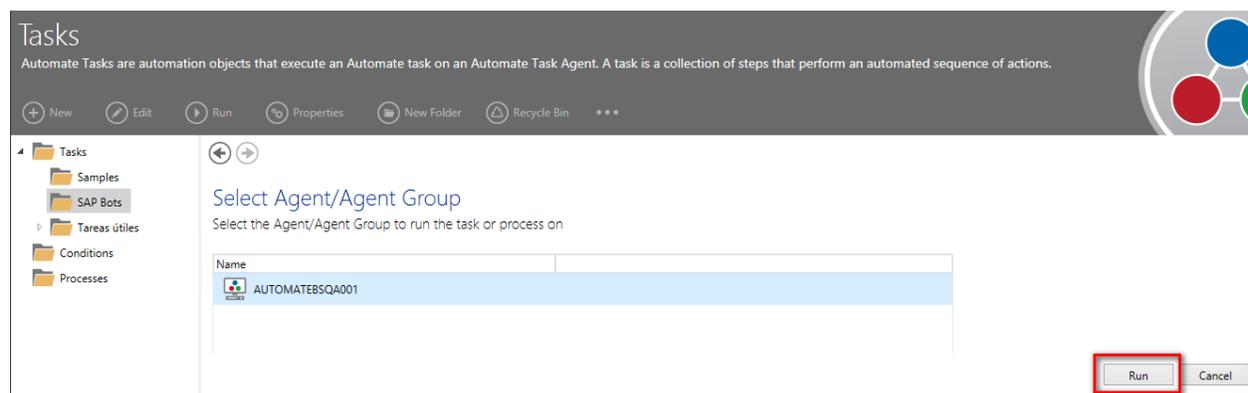


タスクを保存して閉じます。

タスクを選択し実行をクリックします。



Agent を選択し、再度「実行」をクリックします。





付録 A –GOOGLE ANALYTICS ユーザービュー実行結果の例

結果 Excel ファイル:

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
Date	Channel Grouping	Users	New Users	Percent New Sessions	Sessions Per User	Sessions	Bounce Rate	Average Session Duration	Page Views Per Session
2020-07-13	Direct	2			1,5	3	66,67	9,67	4,67
2020-07-10	Direct	2			3,5	7	14,29	1386,86	20,57
2020-07-09	Direct	2	2	66,67	1,5	3		4586,67	55,67
2020-07-07	Direct	1			1	1		248	8
2020-07-06	Direct	2	2	66,67	1,5	3		1981,67	23

L	M	N	O	P	Q	R	S	T
	Users	New Users	Percent New Sessions	Sessions Per User	Sessions	Bounce Rate	Average Session Duration	Page Views Per Session
Totals	9	4	23,53	1,89	17	17,65	1746,47	23,65
Maximums	2	2	66,67	3,5	7	66,67	4586,67	55,67
Minimums	1			1	1		9,67	4,67

GoogleAnalyticsUsersbyGroup_14072020_174322.xlsx

ファイルの命名規則:

GoogleAnalyticsUsersbyGroup_ 基本のファイル名

14072020

実行日を表す(ddMMyyyy)

174322

実行時間を表す(Hmmss)

注: 出力ファイルはタスクフォルダに作成されます: C:\Automate\Tasks\<<TASK NAME>>.



付録B-トラブルシューティング

- ログ: ボットの各反復は、トラブルシューティングのためにログファイルを作成します。ログファイルは、C:\Automate\Tasks\<<TASK NAME>>の下にあります。デフォルトでは、タスク名は「*Google Analytics Bot - Get Analytics Users by Channel*」です。



About HelpSystems

Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and AutoMate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people